

續瘍科秘錄

五

續瘡科秘錄卷之五

目錄

顴骨疽

附圖

膿耳流注

頭瘡

蝦蟆瘡

涎囊損傷

會厭腫

胃脘癰

解癰

附圖

蚯蚓吹

蹠戾

附圖

誤吞硝子球

莽草毒

河豚毒

礬石毒

菌毒

鴉片毒

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

續瘡科秘錄卷之五

棗軒本間先生口授

下野 川又誠

陸奥 目黑安

門人 越後 稲葉賢 同記

常陸 石塚雄

下總 篠塚節

顴骨疽

顴骨疽ハ證治準繩ニ載セテ顴疽トモ又顴瘍トモ云
フ少壯ノ者ニ少ク老大ノ人ニ多シ至極ノ難證ナ

リ百死ニシテ一生ナシ初發顎骨ノ上微ニ硬腫シ
テ色ヲ變セス日久シクシテ顎骨ヨリ歯牙ニ連リ
隱隱トシテ痛ミ或ハ涕洟頻ニ流レ或ハ衄血數出
テ宛モ偏頭痛ノ如ク又齦齒痛ニモ似タリ漸腫テ
愈堅ク幾處モ凸起シテ疼痛モ亦加ヘ始テ紫色ニ
變シ漸次ニ自潰シテ瘡口深ク巖岫ノヤウニナリ
稀膿臭水淋漓トシテ止マス穢氣薰蒸シテ一室ニ
満チ瘡口ヨリ瘍肉翻出シ藥線或ハ腐藥ニテ之ヲ
去ルニ去ルニ隨テ又生シ乳岩癰瘤等ノ翻花肉ト
同質ナリ若シ誤テ揩損スレハ鮮血逆リ出ルモノ

ナリ面貌異状ニナリテ偏眼腫レ塞カリ或ハ瞳孔
散大シテ明ラ失シ鼻モ曲リ或ハ瘻肉ニテ鼻孔塞
カリ上齶ヘモ潰エ歯牙モ脱落シ膿血滴瀝シテ口
中臭ク或ハ翻花シタル肉ニテ咽喉ラ塞キ微ニ往
来寒熱シ脈沉遲或ハ細數ニナリ飲食漸減少シ苦
楚日ニ加ヘ半年或ハ一年ニ至リ疲勞極テ死スル
モアリ或ハ癪ラ發シテ死スルモアリ

治法此病必死ナレハ決シテ救フヘキノ手段十シ然
レ氏療治ヲ誤ラス調理ヲ得ル時ハ苟モ歲月ヲ延
フヘシ初起腫痛ノ微ナルモノハ涼膈散加石膏ヲ

服シ神水膏ヲ摩擦スヘシ漸漸ニ高ク腫レ堅硬石
ノ如キモノハ仙方活命飲ニ宜シ瘡頂紫色ニ變ス
ル寸ハ先鋒ヲ貼スヘシ潰爛翻花スルニ至ラハ破
敵ヲ綿片ヘ攤テ貼スヘシ翻肉高ク出ルモノハ消
疣水ヲ點シ後衝ヲ貼スレハ一旦ハ消スルナリ其
證ニ應シテハ藥線ニテ緊繫スルアリ若シ截斷
スル片ハ血ノ多ク出ル者ナレハ妾ニ刀ヲ下スヘ
カラス稀膿臭水多ク出テ、疲勞スル者ニハ十全
大補湯ヲ専用スヘシ寒熱アリテ飲食ヲ思ハサル
者ニハ補中益氣湯ヲ與フヘシ口中ヘ潰爛翻花ス

ル者ニハ氷硼散金鎖ヒノ類ヲ吹ヘシ

癰骨疽應用方

涼膈散加石膏

仙方活命飲

十全大補湯

補中益氣湯

氷硼散

金鎖ヒ

神水膏

先鋒

破敵

消疣水

後衝

經穴本末全

卷五

目錄

顴骨疽圖



又圖



總編科林金

卷五

首準亭稿

膿耳流注

膿耳流注ハ膿耳ノ流注ナリ初發ハ常ノ膿耳ニテ耳中痛ニ微シク惡寒發熱シ數日ニシテ膿出レ氏痛尚減セス寒熱彌增加シテ耳輪及ニ耳根ノ周圍焮熱腫痛シテ頭モ半分ハ微ク腫レ偏頭痛ノ如クニ痛ミ舌ハ黃苔ニナリ或ハ黒苔ニ變シ或ハ渴シ或ハ喜嘔シテ飲食ヲ思ハス或ハ眩暉スルヲ有リ大便多クハ秘結シテ通セスセ七八日ニシテ先ツ耳後ニ膿ヲ成スモノナリ早ク之ヲ割開スヘシ若シ鍼ヲ刺ス度ヲ失スル氏ハ外ヘ流注シテ或ハ鼻ヘ潰

エ 腦漏ノ如クナル者アリ或ハ耳上及ヒ耳前ヘ潰
エ或ハ廣ク流注シテ鬚髮ノ中マテ膿ニナルトア
リ膿出テモ腫速ニ消散セス瘡口ハ盡ク耳底ヘ通
スレ。此膿管曲折シテ紙燃膏及ヒ消息子モ深ク入
カタキモノナリ膿ノ快出セヌユエ或ハ腫レ或ハ
消シ往再トシテ日ヲ延キ數月或ハ半年一年ニ及
フ者アリ老人ハ遂ニ疲勞シテ死スル者有リ此證
ヲ患フル者腫痛甚シキ寸ハ卒然トシテ癇ヲ發シ
反覆顛倒。手足搐搦。口眼喎斜。號叫妄語。或笑或悲人
事ヲ省カリミス直視失溲等ノ諸證蜂起スル者ハ毒ノ脳

海へ入タルニテ必死ナリ凡頭面ノ諸病頭項打撲。
偏正頭痛。結毒頭痛。解顱。疔瘡。顴骨疽。對口疽等或ハ
妾ニ齒牙ヲ拔ノ類モ亦癟ヲ發スルノアルハ膿
耳ニテ癟ヲ發スルト同シ世ニ此證ヲ頭瘡ト為ス
者アリ是大ナル誤ナリ頭瘡ハ皮膚ノ病ニテ腦海
ヘ内攻スルノ無シ又此證ノ鼻ヨリ膿ノ出ルヲ見
テ誤テ腦漏ト為モノアリ脳漏ハ其病腦ヨリ起テ
鼻及耳ヨリ膿ノ出ルナリ此證ハ毒ノ耳ヨリ生シ
テ腦ヘ波及スルモノナレハ其病因判然トシテ自
ラ異ナリ能ク明辨シテ治療ヲ誤ルヘカラス

治法初發耳中痛ミ寒熱強ク未夕膿ヲ成サ、ルモノ
ハ葛根湯ノ證ナレ。氏凡頭面ノ諸病腫痛スル者ニ
ハ石膏ニテ奇効ノ有モノナレハ大青龍湯。桂枝ニ
越婢一湯ヲ撰用スヘシ。膿出テモ腫痛減セス。往來
寒熱喜嘔頭眩スル者ハ小柴胡湯加石膏ニ宜シ。又
柴胡清肝湯ヲモ用ユヘシ。舌上黑苔ニナリテ乾燥
シ或ハ渴シ大便秘結スル者ハ涼膈散加石膏ニ宜
シ。外治ハ鯨蕊ニ綿ヲ纏^{カラフ}ミ耳竅ノ膿ヲ拭ヒ去リテ
潤肌油ヲ滴入スル。一日ニ三次スヘシ。耳後耳上
ニ膿候アラハ早ク割開スヘシ。瘡口濶クシテ膿快